

絵画制作表現研究 (AZD31)

通年

Painting Research

大学院 芸術表現制作専攻 (博士課程)

年次	1年
対象	22～18 ZD
単位数	12.0単位
担当教員	五十嵐英之

授業の概要

油彩画に関連する表現について、自らの作品に関連する資料を深く調査する。現代的な表現からは社会との関連性について理解し、資料を作成する。歴史に残る作品などからは、用いられている技法の必然性について資料を作成する。それらをもとに自らの表現に引き寄せられる要素を用いて実験的作品と質の高い作品を完成させる。絵画に関連する研究者の資料及び講演、技術指導より、専門性の高い表現力へ繋がる研究に取り組む。

到達目標

1. 油彩画に関連する表現についての資料の作成。
2. 自らの作品コンセプトに必要な技法や表現を用いて実験的な作品を作る。
3. 研究から得られた要素が反影された作品を完成させる。
4. 研究者の資料及び講演、技術指導を受けて、自身の表現に関係する研究資料を作成する。

評価方法

実験的作品10%

完成作品60%

研究レポート30%

注意事項

作品のサイズや素材の選択は各自の研究テーマと計画に相応しいものを選択する。

研究者をゲストスピーカーとして招いたり、研究者を訪ねて自らの研究資料を収集する。

授業計画

1週目：オリエンテーション

2週目：各自のテーマ設定

3週目：制作研究

4週目：制作研究

5週目：制作研究

6週目：制作研究

7週目：制作研究

8週目：前期中間講評会

9週目：制作研究

10週目：制作研究

11週目：制作研究

12週目：制作研究

13週目：制作研究

14週目：制作研究

15週目：前期講評会

16週目：制作研究

17週目：制作研究

18週目：制作研究

19週目：制作研究

20週目：制作研究

21週目：制作研究

22週目：制作研究

23週目：後期中間講評会

24週目：制作研究

25週目：制作研究

26週目：制作研究

27週目：制作研究

28週目：制作研究

29週目：制作研究

30週目：後期講評会

報告会毎に研究者から収集した資料を作成し、発表する。

授業外学習

研究資料の資料収集のため美術関連施設や各種資料館などに調査活動に出る。

教科書

Live with Drawing 五感・授受（KAファクトリー）

Live with Drawing 描き合う事（KAファクトリー）

Live with Drawing 視点 精神分析（KAファクトリー）

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

備考

絵画制作表現研究 (AZD32)

通年

Painting Research

大学院 芸術表現制作専攻 (博士課程)

年次	1年
対象	22～18 ZD
単位数	12.0単位
担当教員	森山知己

授業の概要

各自のテーマに沿った授業計画を個別に立てて行う。新しい表現を実現する多面的な研究を、材料、技法、表現手法等について高い表現研究を目指す。

到達目標

1. 日本画の伝統的な材料や技法の研究を行える。
2. 研究資料の収集等から深めるべき研究の進路を選択できる。
3. 研究の過程や成果をいかし、制作の高度化と充実を図ることができる。

評価方法

作品制作の過程 質疑応答含む (30%)

完成作品 (70%)

注意事項

研究に応じて適宜連絡する。

学外での調査研究を行うことがある。

授業計画

【授業計画】

1週目：オリエンテーション

2週目：各自のテーマ設定

3週目：制作研究

4週目：制作研究

5週目：制作研究

6週目：制作研究

7週目：制作研究

8週目：制作研究

9週目：制作研究

10週目：制作研究

11週目：制作研究

12週目：制作研究

13週目：制作研究

14週目：制作研究

15週目：制作研究

16週目：制作研究

17週目：制作研究

18週目：制作研究

19週目：制作研究

20週目：制作研究

21週目：制作研究

22週目：制作研究

23週目：制作研究

24週目：制作研究

25週目：制作研究

26週目：制作研究

27週目：制作研究

28週目：制作研究

29週目：制作研究

30週目：作品合評

授業外学習

展覧会見学、スケッチ等を実施する。個展開催、コンクール、グループ展などへの積極的な出品を行う。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

備考

Painting Research

大学院 芸術表現制作専攻 (博士課程)

年次	1年
対象	22～18 ZD
単位数	12.0単位
担当教員	近藤千晶

授業の概要

発進力のある自らのテーマ、コンセプトを確立し、常に展開についても考察する。関連する作品など資料を集め自作の位置や、制作の方向性に関して再考を重ねる。作品に適した技法を探ることで必然性の獲得を目指し、制作を重ね質を高めて行く。同時に作品の積極的な発表が必須である。

【アクティブラーニング】ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】次作に向けて作品に対する講評や省察などの指導を行っている。

到達目標

1. 自らのテーマやコンセプトを決定することができる。
2. テーマやコンセプトの裏付けとなる技法を獲得し、作品の質の向上させ、作品を完成させることができる。
3. 同じコンセプトで連作することができる。
4. 自らの作品のテーマやコンセプトに関して説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。
5. 作品を展覧会やコンクールへと展開させることができる。

評価方法

作品 (①、②、③) 60%

展覧会、コンクールなどの作品発表 (⑤) 30%

考察過程や資料をまとめた研究レポート (④) 10%

注意事項

作品サイズ、素材などは自由であるが、研究テーマに相応しいものを選択する。

調査研究のため学外授業をする場合がある。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 テーマ、コンセプトの考察
- 3 テーマ、コンセプトの考察 レポート作成
- 4 関連作品など資料収集
- 5 関連作品など資料収集と資料作成 レポート作成
- 6 技法の研究
- 7 技法の研究 試作
- 8 技法の研究 試作 プレゼンテーション
- 9 作品制作
- 10 作品制作
- 11 作品制作
- 12 作品制作
- 13 作品制作
- 14 作品制作
- 15 前期プレゼンテーション 講評会
- 16 作品制作
- 17 作品制作
- 18 作品制作
- 19 作品制作
- 20 作品制作

- 21 作品制作
 - 22 後期中間プレゼンテーション講評会
 - 23 作品制作
 - 24 作品制作
 - 25 作品制作
 - 26 作品制作
 - 27 作品制作
 - 28 作品制作
 - 29 作品制作
 - 30 後期プレゼンテーション講評会
-

授業外学習

研究資料の収集のために美術館や図書館などで研究活動を行う。
展覧会、コンクールにおいて作品の発表を行う。

教科書

特に使用しない

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

備考

彫刻制作表現研究 (AZD42)

通年

Sculpture Research

大学院 芸術表現制作専攻 (博士課程)

年次	1年
対象	22～18 ZD
単位数	12.0単位
担当教員	田丸稔

授業の概要

・制作研究を中心に各自のそれまでの取り組み、過程を重視しながら、彫刻表現の可能性や独自性について研究する。自己と他者との相対的な比較を足がかりにしながら、自身の感覚経験や、一つの表現の生まれる経緯とその経緯そのものの特異性に着目して独自の研究・創作の確立を目指す。

到達目標

1. 各々の身体感覚や感覚経験をもとに領域を横断する理解を深める。
2. 各自の表現の可能性や独自性について制作論の展開を図る。
3. 各々の独自の研究によって創作の確立を目指す。

評価方法

- ・研究レポート50%、作品制作の状況に関する評価30%、出席状況に関する評価20%とする。

注意事項

- ・提出作品は半期に1点以上とする。期限内に完成作品および研究レポートの提出がない者は単位の認定を行わない。

授業計画

- 1週目：オリエンテーション
- 2週目：研究テーマと計画
- 3週目：制作研究およびレポート作成
- 4週目：制作研究およびレポート作成
- 5週目：制作研究およびレポート作成
- 6週目：制作研究およびレポート作成
- 7週目：制作研究およびレポート作成
- 8週目：前期中間発表会
- 9週目：制作研究およびレポート作成
- 10週目：制作研究およびレポート作成
- 11週目：制作研究およびレポート作成
- 12週目：制作研究およびレポート作成
- 13週目：制作研究およびレポート作成
- 14週目：制作研究およびレポート作成
- 15週目：前期講評会および作品等提出
- 16週目：制作研究およびレポート作成
- 17週目：制作研究およびレポート作成
- 18週目：制作研究およびレポート作成
- 19週目：制作研究およびレポート作成
- 20週目：制作研究およびレポート作成
- 21週目：制作研究およびレポート作成
- 22週目：制作研究およびレポート作成
- 23週目：後期中間発表会
- 24週目：制作研究およびレポート作成
- 25週目：制作研究およびレポート作成
- 26週目：制作研究およびレポート作成
- 27週目：制作研究およびレポート作成

28週目：制作研究およびレポート作成

29週目：制作研究およびレポート作成

30週目：後期講評会および作品等提出

授業外学習

・各自の研究の状況に応じて設定する。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

備考

Applied Art Research

大学院 芸術表現制作専攻 (博士課程)

年次	1年
対象	22～18 ZD
単位数	12.0単位
担当教員	磯谷晴弘

授業の概要

ガラスを主な素材としての表現の可能性を理論と技法,双方から研究する。主に技法と作品と言われる「もの」との関係を理論立て、表現とそれらの関係を考察する。

到達目標

- 1、制作に適した技法を発見、探求することができる。
- 2、自分が選択した技法とその展開の可能性を文章化できる。
- 3、制作した作品の社会的な位置を人に伝えることができる。

評価方法

課題等の提出で評価を行う。(作品90%、授業に取り組む姿勢等10%)

注意事項

ディスカッションは、表現された内容と技法、加え歴史的な意味について主な議題として行う。

授業計画

第1週 年間計画制作。

第2週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第3週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第4週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第5週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第6週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第7週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第8週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第9週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第10週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第11週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第12週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第13週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第14週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第15週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第16週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第17週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第18週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第19週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第20週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第21週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第22週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第23週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第24週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第25週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第26週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第27週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第28週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個々人に応じた指導を行う。

第29週 ディスカッションおよび作品講評を逐次行い学生個人に応じた指導を行う。

第30週 まとめ

授業外学習

自主的に制作を進めると同時に、美術館等で実物に触れる事。またワークショップ等に参加する機会があれば参加する。

教科書

使用しない。

参考書

授業中に適宜指示する。

備考

年次	1年
対象	22～18ZD
単位数	2.0単位
担当教員	松岡智子

授業の概要

博士課程では、各自の研究テーマはいつそう絞られて、独自色の強いものとなる。そこで、授業は毎時間、各自の研究経過を口頭で発表することをもって進める。授業形式はオムニバスで行い、各教員がそれぞれの発表について、助言や指導を与え、より質の高い研究成果をめざす。発表者は順次事前に指名するが、指名されない学生も、毎回研究状況を簡単に報告し、他の発表について質問や感想を述べ、より多角的・総合的に研究を深めるよう努めてほしい。

到達目標

1. 異なった領域の学生が、同一の議論の場を共有することができる。
2. 多角的な視点を獲得することで、様々な芸術に関する議論ができる。
3. 議論を通じて柔軟な思考を身に着けることができる。

評価方法

授業への取り組み、発表、研究成果などにより総合的に評価する。（授業態度10%、発表20%、研究成果70%）総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・ 授業は変則的に3年間に渡って開講される。
- ・ 1年次から積極的に取り組み、博士課程在学中（3年間）は原則として継続して受講すること。
- ・ 日時等の連絡は掲示などでおこなうので、注意しておくこと。
- ・ 単位の修得には15回中10回以上の出席が必要なので、博士論文を書かない学生も最低限は受講すること。

授業計画

第1クール（1年目）・研究テーマの確定

1. 研究の範囲
2. 研究の意義
3. 研究の方法
4. 先行研究の把握
5. オリジナリティ

第2クール（2年目）・研究テーマの掘り下げ

6. 具体的手順
7. 文献収集
8. 文献調査
9. 実地調査
10. 総合的分析

第3クール（3年目）・研究テーマの完成

11. 序論の執筆
12. 全体の構成
13. 各章のつながり
14. 口頭発表
15. レジユメの作成

授業外学習

- ・ 修士課程で修めてきた成果をふまえ、博士論文の作成を視野に入れながら、研究方法を模索し、さらに高度な研究成果をめざす。
- ・ 毎回の授業に合わせて発表者は配布資料を準備をし、授業後は発表内容をレポートにまとめる。

教科書

使用しない。

参考書

授業中に指示する。

備考

領域横断特別研究（AZD02）

通年

Interdisciplinary Research

大学院 芸術表現制作専攻（博士課程）

年次	1年
対象	22～18 ZD
単位数	2.0単位
担当教員	磯谷晴弘

授業の概要

造形素材としてのガラスの可能性を他の素材と比較検討しながら探求する。ガラスの性質を踏まえながら、素材、技法、形態、空間相互の関係について研究する。他素材、他分野の教員とのコンタクトを取り研究に必要な指導を受けることを進める。

到達目標

1. 素材の違いによる制限や、結果の比較研究ができる。
2. 研究結果を客観的なレポートに記述できる。
3. 各自の使用する素材と素材へのアプローチが、明確にすることができる。

評価方法

提出作品80%研究、レポート10%、平常点10%で評価する。
指向する方向によりその割合は変化するが、協議によって決定する。

注意事項

制作研究には、素材の違いによる制限や、結果の比較研究の成果が反映される事が望ましい。

授業計画

オリエンテーション
研究テーマのディスカッション
研究テーマのディスカッション
研究テーマのディスカッション
作品制作へのアプローチのディスカッション
作品制作とディスカッション
作品制作とディスカッション
作品制作とディスカッション
作品制作とディスカッション
作品制作とディスカッション
作品制作とディスカッション
作品制作とディスカッション
作品制作とディスカッション
レポート提出
作品講評

授業外学習

見る事、聞くこと、触ることすべてが、研究につながっていることをふまえ、できるだけ多くの時間を、制作研究に向ける。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

備考

領域横断特別研究（AZD03）

通年

Interdisciplinary Research

大学院 芸術表現制作専攻（博士課程）

年次	1年
対象	22～18 ZD
単位数	2.0単位
担当教員	五十嵐英之

授業の概要

油彩画の特性と各自の専門領域との関係について、独自の視点から共通する表現要素を見いだす。そのことを言語化し研究の視点を明確にしながらか制作研究を進める。

実験的な要素を含む試作的な作品制作とそこで得られた成果を反影させた作品制作に取り組む。

研究の展開と完成作品についてプレゼンテーションする。

各自テーマを設定してディスカッションし、今後の制作展開について考察する。

到達目標

- 領域を横断する研究の視点を明確にできる。
- 実験的な作品とそれを反影させた作品を完成する。
- 自らの作品について、新たな視点をもって展開する可能性をみつける。

評価方法

提出作品70%

プレゼンテーション20

提出資料10%

注意事項

制作に必要な材料は各自準備する。道具や工房などについては、必要に応じて大学のものを使用する事ができる。

授業計画

- 1週目：オリエンテーション
- 2週目：研究計画の立案
- 3週目：制作研究 試作(1)
- 4週目：制作研究 試作(2)
- 5週目：制作研究 試作(3)
- 6週目：レポートの作成(1)
- 7週目：レポートの作成(2)
- 8週目：前期中間発表会
- 9週目：制作研究 作品制作(1)
- 10週目：制作研究 作品制作(2)
- 11週目：制作研究 作品制作(3)
- 12週目：制作研究 作品制作(4)及びレポートの作成(3)
- 13週目：制作研究 作品制作(5)及びレポートの作成(4)
- 14週目：制作研究 作品制作(6)及びレポートの作成(5)
- 15週目：講評会

授業外学習

各自の研究内容に応じて、必要な資料を収集するため美術館、図書館、関連施設等へ調査活動に出る。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて提供する。

備考

領域横断特別研究（AZD04）

通年

Interdisciplinary Research

大学院 芸術表現制作専攻（博士課程）

年次	1年
対象	22～18ZD
単位数	2.0単位
担当教員	田丸稔

授業の概要

・ 塑造彫刻をはじめとした立体制作表現と、その他の専門領域の表現を比較しつつ、特に身体感覚をキーワードに領域横断的な表現の創造を試みる。各々の共通点や相違点を比較研究しながらディスカッションを交え、各自表現の独自性構築や探求の足がかりとする。

到達目標

1. 各々の身体感覚や感覚経験をもちに、領域横断的な理解を深める。
2. 各自の表現の可能性や独自性について制作論の展覧会を図る。

評価方法

・ 研究レポート50%、作品制作の状況に関する評価30%、出席状況に関する評価20%とする。

注意事項

・ 提出作品は半期に1点以上とする。期限内に完成作品および研究レポートの提出がない者は単位の認定を行わない。

授業計画

- 1週目：オリエンテーション
- 2週目：研究テーマと計画
- 3週目：制作研究およびレポート作成
- 4週目：制作研究およびレポート作成
- 5週目：制作研究およびレポート作成
- 6週目：制作研究およびレポート作成
- 7週目：制作研究およびレポート作成
- 8週目：前期中間発表会
- 9週目：制作研究およびレポート作成
- 10週目：制作研究およびレポート作成
- 11週目：制作研究およびレポート作成
- 12週目：制作研究およびレポート作成
- 13週目：制作研究およびレポート作成
- 14週目：制作研究およびレポート作成
- 15週目：講評会および作品等提出、まとめ

授業外学習

・ 各自の研究の状況に応じて設定する。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

備考

領域横断特別研究（AZD05）

通年

Interdisciplinary Research

大学院 芸術表現制作専攻（博士課程）

年次	1年
対象	22～18 ZD
単位数	2.0単位
担当教員	森山知己

授業の概要

伝統的素材、技法の持つ今日的な可能性を他の素材、表現と比較検討しながら探求する。素材、技法、形態、プレゼンテーションする空間、文化背景まで含め研究する。他素材、他分野の教員とのコンタクトを取り研究に必要な指導を受けることを勧める。

到達目標

- それぞれの素材の違いによる制限や、可能性を比較研究できる。
- 自身が制作に使用する素材へのアプローチが明確にできる。

評価方法

指向する方向によりその割合は変化するが、協議によって決定する。

- ・作品の制作過程（30%）
- ・完成作品の評価（70%）

注意事項

研究制作には、素材の違いによる制限や、結果の比較研究の成果が反映される事が望ましい。
学外での調査研究を行うことがある。

授業計画

【授業計画】

- 1週目：オリエンテーション
- 2週目：研究テーマのディスカッション
- 3週目：研究テーマのディスカッション
- 4週目：研究テーマのディスカッション
- 5週目：作品制作へのアプローチのディスカッション
- 6週目：作品制作とディスカッション
- 7週目：作品制作とディスカッション
- 8週目：作品制作とディスカッション
- 9週目：作品制作とディスカッション
- 10週目：作品制作とディスカッション
- 11週目：作品制作とディスカッション
- 12週目：作品制作とディスカッション
- 13週目：作品制作とディスカッション
- 14週目：レポート提出
- 15週目：作品講評

授業外学習

自主的制作研究・発表、美術館等での研修、ワークショップへの参加、先人美術家・作家と話をする機会を作る。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

領域横断特別研究（AZD06）

通年

Interdisciplinary Research

大学院 芸術表現制作専攻（博士課程）

年次	1年
対象	22～18 ZD
単位数	2.0単位
担当教員	近藤千晶

授業の概要

異なる領域の教員からの指導を同時に受けることで、新しい視点を加えたり、複数の分野の特質や効果が相乗された作品の完成を目指す。それぞれの教員と交互に、あるいは三者でディスカッションを重ねることで、新しく実験的な制作に取り組み、今後の制作研究における展開の幅を拡げ、作品のオリジナリティーを強化する。

【アクティブラーニング】ディスカッション、プレゼンテーションを取り入れている。

【フィードバック】研究レポートに対する講評や省察などの指導を行っている。

到達目標

1. 新たな視点の獲得し、新しい可能性を追求した作品を完成させることができる。
2. 完成した作品を、今後自らの作品にどのように反映させて行くかを展望を描くことができる。

評価方法

作品（①作品の独創性、完成度）70%

研究レポート（②考察過程や今後の展望などの資料をまとめ）30%

注意事項

作品サイズや素材などは自由であるが、研究テーマに相応しいものを選択する。

調査研究のため学外授業を行う場合がある。

授業計画

- 1オリエンテーション
- 2研究スケジュールをたてる
(教員との打ち合わせを含む)
- 3作品制作
- 4作品制作
- 5作品制作
- 6 作品制作
- 7作品制作
- 8プレゼンテーション 中間講評会
- 9作品制作
- 10作品制作
- 11作品制作
- 12作品制作
- 13作品制作
- 14作品制作、研究レポート作成
- 15プレゼンテーション 講評会

授業外学習

相互の分野の研究資料の収集のために美術館や図書館などへの調査活動を行う。

教科書

特に使用しない。

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

備考

領域横断特別研究（AZD07）

通年

Interdisciplinary Research

大学院 芸術表現制作専攻（博士課程）

年次	1年
対象	22～18ZD
単位数	2.0単位
担当教員	馬場始三

授業の概要

今日のメディア表現技術や情報通信技術を用いた作品表現の可能性を芸術領域の中で探求する。プログラミング技法、Web技術、AIといったクラウドサービスの活用など、モダンなメディア表現技術やシステム構築技術を必要に応じて学びながら作品の表現手法を研究する。また、他分野の教員とのコンタクトを積極的に取ることで、領域横断的な研究に必要な指導を広く受けながら作品を制作する。

到達目標

- 関連分野の作品を比較研究し、研究の視点を明確にできる。
- テーマやコンセプトを設定した上で、作品のプロトタイピングを行うことができる。
- 自らの作品について、新たな視点をもって展開する可能性を見つけることができる。

評価方法

研究報告書（20%）と、プレゼンテーション（10%）と、完成作品の評価（70%）に基づいて総合的に評価する。到達目標1、2、3は研究報告書とプレゼンテーション、到達目標3は完成作品の評価により成績を評価する。総合計60点以上を合格とする。

注意事項

学外のクラウドが提供するクラウドサービスが作品制作に必要な場合は各自準備する。

授業計画

回数	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	研究テーマのディスカッション
第3回	研究テーマのディスカッション
第4回	研究テーマのディスカッション
第5回	作品制作研究へのアプローチのディスカッション
第6回	作品制作研究とディスカッション
第7回	作品制作研究とディスカッション
第8回	作品制作研究とディスカッション
第9回	作品制作研究とディスカッション
第10回	作品制作研究とディスカッション
第11回	作品制作研究とディスカッション
第12回	作品制作研究とディスカッション
第13回	作品制作研究とディスカッション
第14回	研究報告書の提出
第15回	研究成果発表および作品講評

授業外学習

研究資料の収集のために美術館や図書館、関連学会で調査活動を行う。作品の自主制作や発表をする機会を作る。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は、適宜紹介する。

備考

年次	1年
対象	22～18ZD
単位数	2.0単位
担当教員	中川浩一

授業の概要

アニメーション表現の豊かな可能性について新たな議論と認識を深め、さまざまな領域の表現を取り込みつつ新しい表現実現のため企画、提案、実行、記録、評価、情報発信を行い、プロジェクトを通じて、アニメーション表現の意欲的な深化を促す方策と社会的な意義を研究する。SDGsの視座からアニメーション表現の広域な活用の構想から地域における文化発信、芸術活動の活性化に寄与する方向性を研究する。

【ICTを活用した双方向型授業】

GoogleClassroomを全面的に導入し、下記の双方向型の授業展開を実施する。

- ・ 授業内容をレジュメ形式であらかじめ提示する。
- ・ 課題作品はGoogleClassroomを通じて提出する。
- ・ その都度ごとに必要な資料、確認しておくべきWebサイトなどを掲示する。
- ・ 提出された課題についてもGoogleClassroomを通じて講評を各学生に送信する。
- ・ 授業時間外での授業や課題制作についての質問はGoogleClassroomのコメント機能を活用し時間帯を問わず質問できるようにする。

【アクティブラーニング】

前半では設定されたテーマを作品として構想・制作することを通じて「問題解決」「調査学習」型の学習能力やスキルを習得することができる。また作品構想時にはプレゼンテーション、作品制作後の総合合評をとり入れることで「発見学習」「グループディスカッション」「ディベート」「グループワーク」型の学習能力やスキルを習得する。

【フィードバック】

- ・ プレゼンテーションや構想発表での講評、ICT導入による提出作品への講評、また双方向型の意見交換によって、自省的な観点から制作をみなおし、より高いクオリティでの制作のために自身の知見をより深める。
- ・ プレゼンテーション時に合評のスタイルでディスカッションを実施する。

【実務経験のある教員による授業科目】

制作会社勤務を経てフリーランスのアニメーターとして多数のCMアニメーション、PV、MVなどを制作してきた経験を元に、アニメーションを企画・制作して作品化する技術やワークフローを学ぶ授業を実施する。

到達目標

- 1 アニメーション表現をSDGsアートプロジェクトとして構築できるようになる。
- 2 表現の社会化を目指した企画や作品表現ができるようになる。
- 3 領域を跨がった多彩かつ多様なアニメーション表現ができるようになる。

評価方法

授業に取り組む姿勢(10%)、プロジェクト制作(70%)、報告書作成(20%)により評価する。

到達目標1は授業に取り組む姿勢および報告書作成によって、到達目標2および3はプロジェクト制作により評価する。

総合計60点以上を合格とする。

注意事項

単にアニメーションの技術的な修練を目指すのではなく、表現としての作品制作を主眼としていることを理解すること。またデジタルツールでの制作を前提としておりそうしたツールの基礎的な操作については知識があることを前提とする。

授業計画

回数	内容
----	----

回数	内容
第1回	アニメーション表現のありようについての再確認 ・アニメーションとして実施されたアートプロジェクトの調査と研究
第2回	SDGs的アートプロジェクトの実例研究(1) ・表現の方向性 ・プロジェクト規模 ・文化的基盤の相違 ・再評価
第3回	SDGs的アートプロジェクトの実例研究(2) ・アニメーションプロジェクトの存在意義 ・表現の成立の可否再検討
第4回	プロジェクト構想(1) ・実例研究に基づいたアートプロジェクト構想 ・ディスカッション ・再構築
第5回	プロジェクト構想(2) ・プレゼンテーション ・ディスカッション ・フィードバック
第6回	アニメーション表現技法の再確認 ・3DCG技法 ・2DCG技法 ・アナログ技法 ・インタラクティブアニメーション技法 ・ARなどXR表現 など
第7回	プロジェクト実践(1) ・ディスカッションに基づいたプロジェクトの再構築 ・準備作業 ・実作業と各種調整 ・プロトタイプ制作作業
第8回	プロジェクト実践(2) ・プロトタイプ制作作業 ・作品制作
第9回	プロジェクト実践(3) ・プロトタイプ制作作業2 ・作品制作2
第10回	プロジェクト実践(4) ・プロトタイプ実験とフィードバック ・再修正
第11回	プロジェクト実践(5) ・プロトタイプ制作作業3 ・作品制作3
第12回	プロジェクト実践(6) ・プロトタイプ制作作業4 ・作品制作4
第13回	プロジェクトの実行
第14回	プロジェクトの記録と全体の評価
第15回	報告提出と総まとめ

授業外学習

回数 内容

回数	内容
第1回	授業計画に示した内容について事前に概略をつかんでおくこと。デジタルツールの使い方などについても事前に確認しておく。(2時間)
第2回	前回授業内の指示に基づいて資料精査、参考動画視聴および小課題についての準備を整える。
第3回	前回授業内の指示に基づいて資料精査、参考動画視聴および小課題についての準備を整える。デジタルツールの使い方について復習する。(2時間)
第4回	前回授業内の指示に基づいて資料精査、参考動画視聴および小課題についての準備を整える。デジタルツールの使い方について復習する。(2時間)
第5回	テーマ設定、ストーリーメイキング、デザインなどの構想を練りプレゼンテーション発表のための準備。(2時間)
第6回	テーマ設定、ストーリーメイキング、デザインなどの構想を練りプレゼンテーション発表のための準備。(2時間)
第7回	プロジェクトのための構想を練りプレゼンテーション発表のための資料作成。発表の準備。(2時間)
第8回	前回授業内の講評に基づいて制作内容の修正、品質向上のためのブラッシュアップ作業。(2時間)
第9回	授業外時間での作画作業の準備と作画作業実施。デジタルツールの使用について実践と復習。(2時間)
第10回	授業外時間での作画作業の準備と作画作業実施。デジタルツールの使用について実践と復習。(2時間)
第11回	プロジェクト実施のための準備(2時間)
第12回	プロジェクト実施のための準備(2時間)
第13回	プロジェクト実施のための準備(2時間)
第14回	プロジェクトの記録と全体の評価準備(2時間)
第15回	プロジェクトの記録と全体の評価と報告書作成(2時間)

教科書

使用しない。

(適宜資料をPDFで配布あるいはプロジェクター投影またはダウンロード可能なデータを明示する。また参考動画の視聴が可能なWebサイトのURL掲示を実施する)

参考書

- 『20XX年の革命家になるには』 長谷川愛/塚田有那編著 (ビー・エヌ・エヌ新社) <ISBN-13: 978-4802511711>
- 『アニメーションの本』 アニメ6人の会(合同出版) <ISBN-13: 978-4772604611>
- 『トム・バンクロフトが教える キャラクターに生命を与える技術』 トム・バンクロフト他 (ポーンデジタル) <ISBN-13: 978-4862461933>
- 『ゼロから学ぶプロの技 神技作画』 Toshi(KADOKAWA) <ISBN-13: 978-4046015037>
- 『増補 アニメーターズサバイバルキット』 リチャード・ウィリアムズ (グラフィック社) <ISBN-13: 978-4766121964>
- 『AfterEffects for アニメーション BEGINNER [CC対応 改訂版]』 大平幸輝 (ビー・エヌ・エヌ新社) <ISBN-13: 978-4802510035>
- 『プロジェクトマッピングの教科書』 田中健司 (シーアンドアール研究所) <ISBN-13: 978-4863542181>
- 『Visual Thinking with TouchDesigner - プロが選ぶリアルタイムレンダリング&プロトタイピングの極意』 松山周平/松波直秀/ベン・ヴォイト/サムワーズガーデン (ビー・エヌ・エヌ新社) <ISBN-13: 978-4802510714>
- 『演奏するプログラミング、ライブコーディングの思想と実践』 田所淳 (ビー・エヌ・エヌ新社) <ISBN-13: 978-4802511049>
- 『ART SCIENCE IS. アートサイエンスが導く世界の変容』 塚田有那ほか (ビー・エヌ・エヌ新社) <ISBN-13: 978-4802511148>
- 『Houdiniではじめる3Dビジュアルエフェクト』 平井豊和 (工学社) <ISBN-13: 978-4777520404>
- 『Houdini ビジュアルエフェクトの教科書』 北川茂臣 (エムディエヌコーポレーション) <ISBN-13: 978-4844367604>
- 『Cubase10 Series 徹底操作ガイド』 藤本健 (リットーミュージック) <ISBN-13: 978-4845633548>

備考